愛知大学学長　殿

愛知大学動物実験委員会
委員長　井藤　寛志

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書

愛知大学動物実験倫理基準の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

１．動物実験に関する自己点検・評価報告書
別紙のとおり

２．全般内容に関する項目
①　動物実験従事者数
動物実験責任者数　　１人（実数）
動物実験実施者数　　１人（実数）
②　動物実験計画書の審査のまとめ

新規	許可件数	１件	変更	許可件数	０件
	不許可件数	０件		不許可件数	０件
	取下げ件数	０件		取下げ件数	０件

③　動物実験に関する現況調査票
別記のとおり
④　動物種ごとの飼養数
別記のとおり

３．個別内容に関する項目
①　動物実験の実施状況（別記のとおり）
②　飼養保管施設の管理状況（別記のとおり）
③　実験室の管理状況（別記のとおり）

別紙

動物実験に関する自己点検・評価報告書

愛知大学

2023 年　10 月

Ⅰ．規程及び体制等の整備状況

１．機関内規程

１）評価結果 ■　基本指針に適合する機関内規程を定めている。 □　機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □　機関内規程を定めていない。
２）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
３）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）並びに文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）等に基づき、愛知大学動物実験倫理基準が定められている。
４）改善の方針、達成予定時期

２．動物実験委員会

１）評価結果 ■　基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 □　動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 □　動物実験委員会を設置していない。
２）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 動物実験委員会名簿
３）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準並びに基本指針等に基づいた愛知大学動物実験倫理基準に適合した動物実験委員会が置かれている。
４）改善の方針、達成予定時期

３．動物実験の実施体制

1）評価結果 ■　基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 □　動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □　動物実験の実施体制が定められていない。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な規程が適切に定められている。
4）改善の方針、達成予定時期

4．安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1）評価結果 □　基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。 □　安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 □　安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。 ■　該当する動物実験は、行われていない。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験を行っていない。
4）改善の方針、達成予定時期

5．実験動物の飼養保管の体制

1）評価結果 ■　基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められている。
4）改善の方針、達成予定時期

6．その他

Ⅱ．実施状況

1．動物実験委員会

1）評価結果 ■　基本指針に適合し、適正に機能している。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 動物実験委員会議事録
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 愛知大学動物実験倫理基準等に基づいて、委員会を開催し、関連事項に関して審議した。
4）改善の方針、達成予定時期

2．動物実験の実施状況

1）評価結果 ■　基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。

2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記　2022 年度　動物実験に関する現況調査票、 別記　2022 年度　自己点検報告書（動物実験実施状況)、
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験倫理基準に基づき、動物実験計画書および動物実験報告書を審査し、学長の承認を得た。
4）改善の方針、達成予定時期

3．安全管理を要する動物実験の実施状況

1）評価結果 □　基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。 ■　該当する動物実験は、行われていない。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記　2022 年度　動物実験に関する現況調査票
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理を要する動物は飼養されていない
4）改善の方針、達成予定時期

4．実験動物の飼養保管状況

1）評価結果 ■　基本指針や飼養保管基準等に適合し、適正に実施されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記　実験動物飼養保管等報告 別記　2022 年度　動物実験に関する現況調査票
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 実験動物は適正に飼養保管されている。

4）改善の方針、達成予定時期

5．施設等の維持管理の状況

1）評価結果 ■　基本指針や飼養保管基準等に適合し、適正に維持管理されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準 別記　2022 年度　動物実験に関する現況調査票 別記　2022 年度　自己点検報告書（実験動物飼養保管施設管理状況） 別記　2022 年度　自己点検報告書（動物実験室管理状況）
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管施設は適切に維持管理されている。
4）改善の方針、達成予定時期

6．教育訓練の実施状況

1）評価結果 ■　愛知大学動物実験倫理基準等に適合し、適正に実施されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験倫理基準
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）
4）改善の方針、達成予定時期

7．自己点検・評価、情報公開

1）評価結果 ■　愛知大学動物実験倫理基準等に適合し、適正に実施されている。 □　概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □　多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 愛知大学動物実験に関する自己点検・評価報告書 愛知大学における動物実験に関するＨＰ
3）評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 大学のＨＰに、自己点検・評価報告書及び愛知大学動物実験倫理基準を公開している。
4）改善の方針、達成予定時期

8．その他

委員会構成員として、動物実験等に関して優れた識見及び経験を有する者を外部委員として加えている。

別記

2022年度　動物実験に関する現況調査票

愛知大学動物実験委員会

Ⅰ. 動物実験に関する組織

委員長	職名　教授	氏名	井藤寛志	
事務担当者	職名　豊橋研究支援課	氏名	長本沙世子	
同連絡先	TEL　0532-47-4579	FAX	0532-47-4129	e-mail　tshien@ml.aichi-u.ac.jp
委員	職名　教授	氏名	吉岡昌子	
委員	職名　名誉教授（外部委員）	氏名	樋口義治	

委員の数に応じて、表の行を増やしてください。

Ⅱ. （部局名）おける動物実験の概要

1. 動物実験を行う主たる研究分野

■ 生物心理分野

2. 使用した実験動物の種類と概数

動物種	概数
セキセイインコ	5
オカメインコ	4

動物種の数に応じて、表の行を増やしてください。

3. 承認された動物実験計画数

動物実験計画数	1　件

4. 動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	0　人

5. 実験動物飼養保管施設の現況

飼養保管施設の名称	管理責任者の職・氏名（関連資格・経験年数）				動物種	最大飼養頭数（概数）
	職	氏名	関連資格	経験年数		
比較心理実験棟	教授	関　義正	理学博士	21年	セキセイインコ オカメインコ	10

飼養保管施設の数に応じて、表の行を増やしてください。

6. 動物実験による代表的な研究・教育成果の概要（最近5年間で5件以内：それぞれ、200字以内）

研究課題	動物種	成果の概要
発声学習能力を持つ鳥類の聴覚刺激に基づく身体運動と視聴覚コミュニケーションの研究	セキセイインコ・オカメインコ	他の個体の行動を液晶画面上で再生するなどし、その行動との同調が見られるかを検討した。

7. 特記事項（動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情）

なし

別記（実験動物飼養保管施設及び動物実験室の各管理責任者が作成するもの）

愛知大学動物実験委員会　　殿

所属分野等名　　文学部　心理学科

管理責任者名　　関　義正　㊞

実験動物飼養保管等報告書

愛知大学動物実験倫理基準第24条第2項の規定に基づき、2022年度に飼養保管した実験動物（納入後、速やかに実験に使用したものを含む。）の種類と数について次のとおり報告します。

報告年月日	2023年9月30日

［ 実験動物飼養保管室　動物実験室 ］
※ 該当しないものを一重線（-）で消すこと

飼養保管施設等の名称等	施設名称　動物飼育室
	設置場所　比較心理実験棟
対象年度	2022　年度

実験動物	動物種名	匹数(A)	匹数(B)	飼養保管等の匹数(A+B)
	セキセイインコ	1	4	5
	オカメインコ	0	4	4

留意事項
匹数(A):「実験に使用し死亡した動物の匹数」と「飼育中に死亡した動物の匹数」の合計
匹数(B):報告書作成時に保管していた動物の匹数
実験動物飼養保管施設及び動物実験室ごとに作成

別記（実験動物飼養保管管理責任者が作成するもの）

愛知大学動物実験委員会　御中

2022年度　自己点検報告書（実験動物飼養保管施設管理状況）

提出日　　2023年9月30日

管理責任者	（部局名）	文学部	（分野等の名称）	心理学科
	（氏名）	関　義正	（職名）	教授
	（連絡先℡）	内線1431	（e-mail）	yseki@vega.aichi-u.ac.jp
整理番号				
飼養保管施設名称	動物飼育室			
施設設置場所	比較心理実験棟			
1.　総合的管理状況	総合的に見て、適正に管理することができたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
2.　動物実験及び飼養保管の状況	動物を適正に飼養・保管し、動物実験に用いさせたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
3.　安全確保	人の安全に配慮した適正な環境が整備されていたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
4.　環境保全	適正な環境を維持することができたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
5.　事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。　■ なし　□ あり			
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
6.　特記事項	なし			
※　動物実験委員会の意見	記入日　：		□ 特に問題なし　□ 下記の点につき注意を要する	

記入要領

1. 部局名は、管理責任者の所属する部局を記入してください。
2. 分野等の名称は、専攻名等を記入してください。
4. 飼養保管管理施設名称及び施設設置場所は、申請書記載内容を記入してください。
5. 項目1から4について、■改善すべき点があった、の場合には下の枠内にその理由を簡潔に記載してください。
6. 項目5については、■ありの場合には下の枠内に発生日時と被災者名を記入してください。
7. 項目6については、必要に応じて記入してください。
8. ※の項目については、動物実験委員会が記入するので、記入しないでください。

別記（動物実験責任者が作成するもの）

（部局名）動物実験委員会　御中

2022年度　自己点検報告書（動物実験実施状況）

提出日　　2023年9月30日

動物実験責任者	（部局名）　文学部	（分野等の名称）　心理学科		
	（氏名）　関　義正	（職名）　教授		
	（連絡先℡）　1431（e-mail）　yseki@vega.aichi-u.ac.jp			
研究課題	発声学習能力を持つ鳥類の視聴覚コミュニケーションの研究	承認番号	5	
動物実験の実施期間	2022年4月1日　～　2027年3月31日			
使用動物種	ジュウシマツ	左の動物数	0	
	セキセイインコ		5	
	オカメインコ		4	
1.　総合的実施状況	総合的に見て、適正に実施することができたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
2.　動物の選択	使用動物種は適正であったか。また、動物を適正に用いたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
3.　動物数の削減	使用動物数（実験使用数及び繁殖数）の削減に努めたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
4.　動物の選択苦痛軽減及び安楽死	動物の苦痛軽減、排除及び安楽死を適正に行ったか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
	2022年度は安楽死は行っていない。			
5.　施設等の利用	飼養保管施設及び実験室を適正に使用したか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
6.　事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。　■ なし　□ あり			
	・発生日時：　被災者名：			
	・発生日時：　被災者名：			
	・発生日時：　被災者名：			
7.　特記事項	2021年度よりセキセイインコ1羽が副鼻腔炎のため獣医師による6か月におよぶ診察・投薬を受けていたが、悪化により2022年度中に死亡した（前年度報告書においても報告のとおり）。定期的な清掃・消毒などで予防し、罹患時には獣医師による早期治療を施し、治療が難しいときは獣医師との相談により安楽死も検討する。			
※　動物実験委員会の意見	記入日　：　□ 特に問題なし　□ 下記の点につき注意を要する			

記入要領

1. 部局名は、実験責任者の所属する部局を記入してください。
2. 分野等の名称は、専攻名等を記入してください。
3. 研究課題は、実験計画申請書の「実験課題名」を記入してください。
4. 承認番号は、審査番号を記入し、変更承認がある場合は、最新の審査番号を記入してください。
5. 動物実験の実施期間は、当初承認時の実験予定期間を記入してください。また、期間の変更がある場合は通期の実験予定期間を記入してください。
6. 項目1から5について、■改善すべき点があった、場合には下の枠内にその理由を簡潔に記載してください。
7. 項目6については、■ありの場合には下の枠内に発生日時と被災者名を記入してください。
8. 項目7については、必要に応じて記入してください。
9. ※の項目については、部局動物実験委員会が記入するので、記入しないでください。

別記（動物実験室（実験操作が48時間以内）の管理責任者が作成するもの）

愛知大学動物実験委員会　御中

2022年度　自己点検報告書（動物実験室管理状況）

提出日　　2023年9月30日

管理責任者	（部局名）	文学部	（分野等の名称）	心理学科
	（氏名）	関　義正	（職名）	教授
	（連絡先℡）	内線1431	（e-mail）	yseki@vega.aichi-u.ac.jp
整理番号				
実験室名称	動物実験室			
実験室設置場所	比較心理実験棟			
1.　総合的管理状況	総合的に見て、適正に管理することができたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
2.　動物実験及び飼養保管の状況	動物を適正に飼養・保管し、動物実験に用いさせたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
3.　安全確保	人の安全に配慮した適正な環境が整備されていたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
4.　環境保全	適正な環境を維持することができたか。　■ 良好　□ 改善すべき点があった			
5.　事故の発生	愛知大学動物実験倫理基準第6章に基づく、事故の措置等の有無。　■ なし　□ あり			
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
	・発生日時：		被災者名：	
6.　特記事項	なし			
※　動物実験委員会の意見	記入日　：		□ 特に問題なし　□ 下記の点につき注意を要する	

記入要領

1. 部局名は、管理責任者の所属する部局を記入してください。
2. 分野等の名称は、専攻名等を記入してください。
3. 整理番号は、申請書右上に記載の番号を記入してください（例、医1－1、医2－1）。
4. 実験室名称及び実験室設置場所は、申請書記載内容を記入してください。
5. 項目1から4について、■改善すべき点があった、の場合には下の枠内にその理由を簡潔に記載してください。
6. 項目5については、■ありの場合には下の枠内に発生日時と被災者名を記入してください。
7. 項目6については、必要に応じて記入してください。
8. ※の項目については、部局動物実験委員会が記入するので、記入しないでください。